

歯学部附属歯科衛生専門学校
令和6年度自己点検・評価及び学校関係者評価票

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
評価項目①【重点目標】 学生募集活動は適正に行われ ているか。	1 現状分析 入学者選抜方法を見直し、令和8年度からは指定校推薦制度の導入を決定した。近年の在学生の出身高校や松戸歯学部附属歯科衛生専門学校の指定校を調査・検討し、適切と思われる複数の高校に学校訪問説明を行い、現在10校を指定校とする運びとなった。令和6年度も令和5年度に引き続き校長、教務主任及び専任教員が広報活動に努めている。 2 長所・特色 令和8年度入学者選抜から指定校推薦制度の導入を決定した。また、年5回行っている進学相談会では、アンケート結果から体験実習内容の見直しや在学生によるサポートの充実を図るなど、来校者のニーズに合わせて対応している。 3 問題点 定員充足率が100%に達していないことや、附属校ならではの組織力を十分に伝えられていない。 4 取組方策 令和6年度の入試状況の点検・評価を行い、必要に応じて入試制度の内容を改善するとともに、歯学部や同窓会、他学部などと連携を強化し、日本大学の附属校としての強みをアピールしていく。	B	近年の現状をしっかりと分析されている。 選抜方法については松戸歯学部附属歯科衛生専門学校の指定校を調査し、次年度からの指定校推薦制度の導入を決定した。問題点に対する解決策が具体的に示されていることが評価される。 11月18日時点で定員充足の見通しが立ちそうな人数となっており、令和6年度の入試で既に好結果が出ている。	高等学校での学校説明会及び進路説明会を行うほか、学園祭では体験会などを行い、学生募集に積極的に努めていることが評価できる。 進学相談会では現役の歯科衛生専門学校生と説明会参加者とが触れ合う席を設け、より身近に実際の学生生活に対する説明をすることができている。 校長、教務主任及び専任教員が広報活動に努めていることはすばらしいと思う。 また歯学部や同窓会、他学部などと連携を強化し、日本大学の附属校としての強みをアピールしていくことも是非継続してほしい点だ。今後更なる入学希望者増加へつなげ、入学者のレベルが上がることを期待したい。 皆様の努力が令和6年度の好結果に結び付いていると感じた。	附属校の強みを伝え続け倍率が上がってほしい。 令和8年度入学者選抜から指定校推薦制度の導入後の結果が楽しみである。 歯科衛生士を目指す人の中には、働きながら資格取得を目指す人や主婦などがいることも考えられる。 様々なニーズに応えるカリキュラムが必要なのかもしれない。	A	令和8年度から導入する指定校推薦制度の応募状況などに鑑み、指定校の補充を含めた指定校推薦制度の見直しを行う。また、現在、日本大学歯学部だけでなく、他学部とも連携した教育を展開しており、日本大学の附属校としての強みをよりアピールしていきたい。その一環としてイン스타그램などのSNSの活用を検討する。
評価項目② カリキュラム・ポリシーに基	1 現状分析 歯科衛生士国家試験出題基準及び歯	B	国家試験出題基準の改訂、社会情勢の変	懇切丁寧な指導や豊富な教材がすばら	臨床実習が学部生と一緒だったことも	A	カリキュラムの大幅な見直しは新カリキュ

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
づき、専門課程にふさわしい 授業科目を開設し教育課程を 体系的に編成しているか。	科衛生学教育コア・カリキュラムの改訂に伴い新カリキュラムを策定し、令和6年度より開始している。また、次年度より始まる新カリキュラムにおける臨床実習に向け、現在の実習内容を見直し、診療参加型臨床実習の構築に向け取り組んでいる。 2 長所・特色 授業科目は全て必修である。授業は科目に関する分野を専門とする歯科医師や医師、コ・メディカルによって行われ、一方向の講義だけでなく、グループワークや演習など学生参加型の授業を多く取り入れている。また、主体性や協調性だけでなく、リーダーシップやマネジメント能力の育成も取り組んでいる。 臨床実習においては、専門基礎分野や基礎実習で修得した知識や技術を、臨床現場で実践できるように、実習内容を構築している。 3 問題点 まだ新カリキュラムを3年間実施していないため、ディプロマ・ポリシーに明示した能力と学習成果の整合性などを検討できない。 4 取組方策 学年ごとの学習成果、学生の満足度や達成度などを数的データ化し、分析・検討を行い見直していく。		化などに伴い長い時間をかけて各々の教員が思慮され新カリキュラムを作成された。 時代に則した対応がなされている。 的確な現状分析がなされ、学生募集と同様最善の解決策を示し教職員一丸となっている雰囲気が伝わってくる補講や基礎実習が見学できた。 今後高齢化社会が進み、多職種連携が重要になってくるので、そういう場面で積極的にリーダーシップやマネジメント能力が発揮できる歯科衛生士を育成しようとしている貴校の取組は評価できる。	しく、愛ある指導がなされている。 学生に対する接し方も好感が持てる。 大学附属の利点を生かして、歯科病院、歯学部及び技工専門学校と協力して学生実習の充実を図っていることは、大いに誇れる取組だと思う。質問の仕方においても教育が行き届き、テクニクのみならず実際の臨床現場での態度や在り方なども同時に学べていた。 また、学生の満足度や達成度などをデータベース化し、分析検討することは先鋭的で、学生たちにも客観的に自分を評価できる資料として有効だと思う。 必修項目が組み込まれた上で、国家試験対策が無理のない範囲で行われている。	あり、しっかり見学できなかったことが少し残念である。 小児の摂食についての学生の見学は真後ろからだだったので、小児への配慮もあるが、もう少し咀嚼の様子が分かるように工夫してほしい。 しかし臨床実習ということで基礎実習には無い良い意味での緊張感を感じた。 問題点として挙げられているように、光学印象採得等触れる機会が増えることが望ましい。 ディプロマ・ポリシー等に関しては改訂間もないので待ちたい。		ラム導入3年後に予定しているが、学生の成績結果も踏まえて、新カリキュラム導入した1年を通してみられた問題点を検討する。特に、技工専門学校と連携し、デジタルデンティストリーとしてこれからの歯科医療に必要な光学印象採得に触れる機会を設ける。
評価項目③ 学生への支援は適切に行われているか。	1 現状分析 校長、教務主任及び専任教員間で学生の情報を共有し、修学支援や生活支援などを行っている。また、日本大学歯学部学生課とも適宜連携をし、精神科医や看護師、臨床心理士などからも助言を得ながらきめ細やかな支援を行っている。	B	教職員が学生の情報を共有し、適切な指導や対応を行っていることはすばらしい。 常に教員が親身に対応し完結できることが多いが、深刻な場合日本大学本部と連	1年次生の補講を見学した。成績不振者に補講を受けさせる取組は他校にもあるが、早期に学生自ら放課後を利用して補講を受講していることには驚いた。親身に丁	年々問題を持った学生が増え教員の負担が大きい。教員一人に対する業務や精神的負担が大きく、十分な指導ができなくなる可能性がある。 教員のサポートも	A	引き続き、担任を中心とした学生の定期的な面談を行い、きめ細やかなサポートを持続する。また、現在の専任教員一人一人の負担が大きく、学生指導にも支障が生じているこ

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	2 長所・特色 成績不振者に対しては、担任を中心に放課後などを利用した補習等で修学を支援し、適宜、保護者も交えて、校長、担任及び副担任と面談を行っている。また心身に困難を抱える学生の支援では、各専門職の助言を得ながら、適切な配慮を提供できるよう努めている。 日本大学歯学部、日本大学本部の学生支援センター及び日本大学病院との連携等日本大学の附属校ならではの支援を活用し、組織全体で支援できる体制が整えられている。 3 問題点 多様化する学生の対応に追われ、担任の負担が大きくなっている。専任教員数が4人のため、全学年を2人体制で学生を支援することができない状況にある。専任教員の時間的な余裕も少ないことから、多様化する学生に対する学生支援が十分にできないケースが生じている。 4 取組方策 毎月行われる教員会や日頃から教員と専門学校事務室間で学生の近況を共有して適切な学生支援を行う。また、専任教員の業務の見直しや専任教員の心身にも配慮しながら、学生支援を強化できるよう努める。さらに、専門学校運営委員会にて継続して教員の学生支援の適切性について多角的に点検・評価を行う。		携を取り、精神科医の対応もなされている。 また、総合大学の強みを生かし、教職員だけで問題を抱え込むのではなく、精神科医や臨床心理士などに助言を受けられることはすばらしい。	寧に時間を使ってサポート及び配慮がされている。 日本大学ならではの手厚い対応が可能になっていると感じた。 また、専門職のアドバイスなど日本大学としてトータルな対応ができることは学生及び保護者の安心につながると思った。 定期的な面談を行い、生徒一人一人へのサポートがなされている。	大切にしたい。 問題点に挙げられているように、専任教員がもう少し多い方が良いと感じた。 専門学校の学生が相談しやすい環境整備が更に必要だと思われる。		とから、専任教員の増員を訴えていきたい。
評価項目④ 災害に備えた環境が整備されているか。	1 現状分析 令和6年度は自然災害により各地で様々な被害が生じている。臨床実習中の学生は日本大学付属歯科病院での避難訓練に参加をしているが、その他の学生は避難訓練を行っていない。また、各学年の掲示板に千代田区災害時避難場所	B	災害はいつ起こるか分からない。 いくら準備しても、その準備やシミュレーションどおりには絶対に進まない。 コロナ禍で手薄に	能登半島地震の被災学生への支援として奨学金が給付されたことはすばらしいと思う。 非常食の備蓄は安心につながる。日本大	日本大学歯学部の組織内にあるために、独自の対策がしづらいことが挙げられるが、日頃からの準備が災害には重要である。 今後は早急に現状	B	歯科衛生専門学校独自の防災マニュアルとアクションカードを作成し、教職員と学生の理解を図る。

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	を掲示しているが、防災マニュアルは目の触れるところに置かれていないなど、環境整備が十分とはいえない。また、日本大学の組織としての強みを持っているが、十分に生かされていない。 2 長所・特色 能登半島地震の被災学生への支援として奨学金が給付されるなど、日本大学には自然災害に関する組織的なサポートがある。学内の設備においては避難口や避難経路が確保され、避難食の備蓄などの防災対策がなされている。 3 問題点 各災害場面に応じた防災マニュアルやアクションカードなどが未作成のため、災害時の対応や役割分担が不明確である。 4 取組方策 歯科衛生専門学校としての各災害場面に応じた防災マニュアルやアクションカードの作成を検討する。		なっていたのは致し方ないが、現状を把握し問題点について適切に分析できているので、日本大学の強みを生かし、早目の対策が望ましい。	学の組織的サポートがあり、設備、備蓄など安心できる。	に即した専門学校としての防災マニュアルとアクションカードの作成をお願いしたい。 また、作成するだけでなく、教職員と学生の目に触れるようにしていただきたい。		